

Osaka Kyoiku
University
Public Information
Magazine

大阪教育大学広報誌

Ten You

天遊

特別号

特集
1

地域・企業とツナガル大教大

特集
2

キャンパス「ナニコレ!」施設

特集
3

大教あるある

Athlete's View
TOPICS

附属学校園ウォッチ



YouTube OKUChannel

インタビューやイベントの様子など動画を随時更新中!
チャンネル登録してね!



地域・企業とツナガル大教大

大阪教育大学の地域貢献、企業・地域との連携 etc...
2022年度に実施した取組の一部をご紹介します。

授業で ツナガル

01

柏原市の健康啓発冊子をリニューアル



▲全員で記念撮影（学生、柏原市職員、第一生命保険株式会社担当者、豊沢准教授）



▲新しい冊子の表紙・裏表紙



▲ウォーキングコース（全5コース）のページでは、消費エネルギーや安全情報、見どころを紹介。

健康安全教育系の豊沢純子准教授の授業「安全科学研究法」を受講する健康安全科学専攻の学生らが、健康啓発冊子「柏原けんこうおたすけ手帳」を作成し、富宅正浩市長から「市の健康づくり事業の推進に寄与した」として感謝状を授与されました。

授業では、柏原市と、同市と包括連携協定を結ぶ第一生命保険株式会社の協力のもと、既存の健康啓発冊子である「柏原市健康ウォーキング手帳 vol.2」の問題点や改善点について話し合い、心理学の観点を取り入れながら、柏原市内のウォーキングコースの内容を中心に学生ならではの目線で冊子をリニューアル。

冊子は、柏原市のウェブサイトに掲載されており、市民の健康推進に活用されています。



イベントで ツナガル

02

小学生向けのプログラミング教材の体験ブース



▲体験ブースの様子



▲ロボット「Root」で迷路に挑戦！



▲Minecraftの操作画面

ICT教育支援ルームに所属する学生らが、小学校プログラミング教材の体験ブースを、柏原市役所前の大和川河川敷公園で開催された第12回柏原市民総合フェスティバルに出展しました。

「Minecraft（マイクラフト）*1」の世界に再現した本学の共通講義棟を探索するコーナーと、プログラミングロボット「Root（ルート）*2」を使った迷路やお絵描き体験コーナーを用意し、当日は約90人の子どもたちが参加。学生らは、ブースを訪れた子どもたちにルールや操作を説明し、大にぎわいとなりました。

*1 Minecraft …… 3Dブロックで構成された世界を冒険したり、ブロックを使ってさまざまな物を作ったりすることができるゲーム。
*2 Root …… 自分でプログラミングをして操作することで、プログラミングの素養を身につけることができる学習ツール。



授業で ツナガル

03

まちづくりを提案 イベントで子どもが水鉄砲サバゲー



▲イベントに参加した子どもたちと、対戦相手となった花園近鉄ライナーズの選手たち



▲学生らは、夏の強い日差しの中、司会を務めたり水鉄砲の水の補充をしたりと当日のイベント運営にも参加！



▲感謝状授与の記念写真

グローバル教育専攻の学生らが、柏原市へ「河川空間のオープン化」の活用に関する提案を行い、富宅正浩市長から「市の発展につながる提案をいただいた」として感謝状を授与されました。

これは、多文化教育系の高山新教授が担当する授業「多文化フィールドワーク」の一環で、2009年に締結した包括連携協定に基づき、令和元年度から本学キャンパスがある柏原市を様々な角度から検討し、まちづくりについて考える授業を行っており、今年で4年目の取組です。

7月の授業では、富宅市長をはじめ柏原市の職員や国土交通省大和川河川事務所の山本浄二所長らを招き、学生らが「大和川の活用方法をテーマにプレゼンテーション。多数の案のうち「水鉄砲を使ったサバイバルゲーム」が、9月に柏原市が大和川河川敷緑地公園で開催した「第2回ロハスパーク大阪柏原」のイベントとして実施されました。

スポーツで ツナガル

04

剣道塾で300人の小中学生に稽古



▲模範稽古の様子



▲竹刀を使用した新聞紙切りを説明する学生

体育会剣道部が、大阪市平野スポーツセンターで開催された「剣道塾」に講師として参加し、顧問教員の太田順康教授と部員36人で、小中学生合わせて約300人の少年剣士に指導を行いました。

当日は、事前に打ち合わせを重ねて企画・準備したグループ分けのもと、子どもたちの技量に合った指導や大学生の模範稽古、実際に剣を交える合同稽古を行いました。子どもたちの真剣に剣道に取り組む姿勢や楽しそうな様子が見られました。



音楽で ツナガル

05

特別支援学校の子どもたちに向けて 吹奏楽コンサートの映像収録

芸術表現専攻音楽表現コースで管・打楽器を専攻する学生らで構成する大阪教育大学ウインドオーケストラが、特別支援学校の児童・生徒に向けた「ハートフルコンサート」の映像収録を、9月に大阪市のザ・シンフォニーホールで行いました。

同コンサートは、本学と大阪府教育委員会、ザ・シンフォニーホールが協力し、2016年から毎年実施しているものです。普段なかなか聴くことのできない生演奏を体感してもらう機会として、大阪府内の特別支援学校を同ホールに招待し開催していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、近年3年は収録した映像を配信しています。

有名なスコットランド民謡をポップで楽しいジャズ風にアレンジした『故郷の空 in Swing』や、YOASOBIの『群青』、フィンガー5のヒット曲メドレーなど、年代やジャンルを問わず皆が楽しめる曲を多数演奏。収録した映像は、各特別支援学校に贈られました。



▲ 収録の様子
皆で楽しく盛り上げられる曲を多数演奏



▲ AKB48の『恋するフォーチュンクッキー』では、学生が「OKU48」と称してかわいいダンスも披露♪



▲ 音楽表現コースオーケストラのコンサート映像はYouTubeで公開中
▲ 声楽を専攻する平村亜里沙さん(4回生)嵐の『カイト』では、歌唱を担当し、伸びのある美しい歌声を響かせました。



一般企業から招へいた

教員と院生らが学会で全国大会優秀賞

AIの専門家として『株式会社エクサウィザーズ』から招へいしている理数情報教育系の安松健特任准教授とともに、大学院教育学研究科の教育ファシリテーションコース2回生の田中友理さんと加瀬佳樹さんが、人工知能学会第36回全国大会で論文を発表し、全国大会優秀賞を受賞しました。

「AIを用いた社会課題解決を通じて、幸せな社会を実現する」というミッションを掲げる同社とは、10月にクロスアポイントメント協定を締結しています。

今回受賞した論文のタイトルは「芸術作品から受ける感動についての構造分析」で、大学院の授業「先端技術・データ活用演習」のグループワークの1つで行った調査分析結果をまとめたものです。芸術作品から受ける感動について明らかにすることを目的に、どのような人が、どのような作品を見て、どのように感じたかを、芸術作品鑑賞の定性的知見からアンケートを設計し、収集データを因子分析とベイジアンネットワーク*というAI技術を用いてモデリング・分析をし、美学的観点で考察を行いました。

田中さんは『教育行政学』、加瀬さんは『美』について研究に取り組んでおり、私は理数情報教育系です。このように多様なメンバーが交流できるのは、本学の特徴だと思います。このような多様な授業環境によって、この『芸術×AI技術』という研究が生まれたと思います。

*ベイジアンネットワーク …… 多くの変数がある時に変数間の定性的な依存関係をグラフ構造によって表し、定量的な関係を条件付き確率で表したモデル(参考文献: 本村陽一、佐藤泰介(2000)「ベイジアンネットワーク: 不確定性のモデリング技術」人工知能学会誌, 15(4), 575-582.)。



▲ 安松特任准教授

企業と ツナガル

07

一般企業にも所属する客員教員が専門性を生かして

企業から研究者として派遣された客員教員が、ゲストティーチャーとして実施する授業も。高度教職開発系の峯明秀教授が担当する教養基礎科目の授業「アクティブ・ラーニング入門」の一面を紹介します！

大学院生が考案した学習ゲームで実証実験授業

学習参考書の出版や知育玩具の商品開発など、さまざまな世代の学びをサポートする『株式会社 Gakken』所属の麻生征宏客員准教授が、附属平野小学校で、学生24名と児童7名による学習ゲーム教材「SDGs バランスタワーゲーム」の実証実験授業を実施。

ゲームは、大学院連合教職実践研究科の授業で院生らが検討・提出したアイデアのなかから、同社が選定(院2回生の河村萌花さんが構想案を作成)したもので、仲間と協力したり教え合ったりしながら、SDGsについて学ぶことをねらいとしています。

午前中に教材の分析や指導案を作成した学生らは、午後は先生役となり児童らと学習ゲームに挑戦しました。



▲ 実証実験授業の様子



▲ 麻生客員准教授



▲ 新田客員講師



▲ お互いに作成したテストに挑戦する学生

世界と ツナガル

08

外国で教員として勤める留学生在が府内の高校生と交流

本学の教員研修留学生*が、7月と9月の2日間、2022年4月に新たに開校した大阪府立桜和高等学校を訪問し、同校の生徒や教員と交流しました。

この交流は「子どもの未来を拓く大阪市と大阪教育大学との包括連携に関する協定書」に基づき、高大連携事業の一環として実施したもの。同校が有する4つの学科・コースのうち教育系の専門学科「教育文理学科」は、大阪市と本学が連携して教育課程を編成しています。

1日目は、教員研修留学生らが、それぞれの国の文化・風習・魅力・課題などについて、写真や出身国の衣装、アクセサリー、小物などを生徒に触れてもらいながら、英語で説明を行いました。また、同校の教員と日本の学校教育に対する意見交換を行い、互いに理解を深めました。

2日目は、同校2年生が1日目の交流で得た情報をもとに準備した英語のプレゼンテーションの審査員として授業に参加し、よりよいプレゼンテーションを行うための助言を行いました。続いて、グループに分かれて生徒と英語で交流しました。さらに、同校内で行われている様々な授業を見学しました。

*教員研修留学生 …… 諸外国の教員であり、所定の日本の大学において学校教育に関する研究を行う外国人留学生。



▲ プレゼンする生徒と傾聴する教員研修留学生



▲ グループに分かれて交流する生徒と教員研修留学生



研究で ツナガル

09

共同開発したウェブ教材がキッズデザイン賞

表現活動教育系の加藤可奈衛教授、渡邊美香准教授、青木宏子非常勤講師が、2019年5月に積水ハウス株式会社の受託研究として、教材『アートとともだち』を開発。その後、絹谷幸二天空美術館と日本たばこ産業株式会社との共同研究により、2021年11月にウェブ教材として公開、翌年の2022年8月にキッズデザイン賞を受賞しました。

この教材は、学校の教員や、子どもたちの鑑賞活動を広く支援する人を対象に、美術館や博物館などの地域の施設や場所を活用して、子どもたち一人ひとりが能動的な鑑賞をするために作成したものです。



▲ 学校の授業、美術館のワークショップ、屋外イベントetc…さまざまな場所で活用されています。

特設サイトでは、教材の使い方として、美術館訪問前に教員が行うこと、美術館での楽しみ方、美術館訪問後の活動、美術館への訪問が難しい場合の鑑賞活動の4つの項目に分けて紹介。「アートとは何か」「自分が美術館で働いていたらどのように展示するか」などをテーマにした、子どもの興味・関心に合わせて活用できるワークシートや、鑑賞を補助する『鑑賞ルーペ』の型紙を掲載しています。また、このサイトでは、教材を活用した鑑賞実践事例や、教材使用・研究内容についてのQ&A、近畿のミュージアム（2023年3月現在117館）なども紹介しています。



▲ ウェブ教材の元となった教材



◀ 第16回
キッズデザイン
賞受賞



◀ ウェブ教材が
ダウンロードできる
「アートとともだち」
の特設サイト

研究で ツナガル

10

脱炭素社会に向けた新材料を開発

理数情報教育系の成田一人准教授が、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の「戦略的省エネルギー技術革新プログラム」において「ナノ溶剤実用化による製造プロセス省エネ化技術の開発」に取り組むパナソニックホールディングス株式会社、東北大学、秋田大学、芝浦工業大学との共同研究に参加し、従来よりも低い温度で電子部品を接合でき、接合後はパワーデバイスに必要な耐熱性が得られるナノ溶剤接合材料を開発。

低融点金属と高融点金属を組み合わせた固液反応を用いることで、低温かつ短時間プロセスでの結合と200℃耐熱の両立を達成しました。



▲ 開発したナノ溶剤接合材料

この新材料を使用することで、産業機器や電気自動車、鉄道などで使用されるパワーデバイスの組立工程に広く展開することが可能となり、パワーデバイス製造プロセスの省エネルギー化とともにカーボンニュートラルの実現に向けた大きな前進が期待できます。



▲ 詳細な研究内容は
NEDOのウェブサイトで

◀ 成田准教授

11

身体情報をリアルタイムに可視化するデバイスを開発

研究で ツナガル



ウェアラブルデバイスを装着すると、連携したタブレット等で、学習者の活動状況が、灰色・緑色・黄色・オレンジ色・赤色と5段階で表示され、感覚的にも素早く情報を理解できる。

表現活動教育系の橋元真央特任講師は、沖電気工業株式会社との共同研究により、心拍数や歩数、位置情報、体表温度などの運動・体調データを、リアルタイムに収集することができるウェアラブルデバイスを開発しました。

同社の無線とIoTの技術を活用し、これらの身体情報をリアルタイムに可視化することで、児童・生徒や教員が適宜確認して身体活動を分析する学習が深まったり、授業中の体調不良の予兆を捉えたり、授業後の振り返りや成績評価の参考にしたりすることを可能とします。

また、附属天王寺中学校で全員の情報をスクリーンに映しながら運動する集団モニタリングを行ったところ、生徒自身が、普段目に見えない個人差があることや仲間の頑張りが（心拍数の変化）に気づくことで「運動時の負荷やきつさの低減に効果をもたらす可能性がある」という結果も出ています。

体育科教育における教育DXを推進し、安全・安心な教育の推進、未来を切り拓く学力・体力の向上、学びを支える教育環境の充実につなげていくことをめざしています。

ネーミングライツで ツナガル

12

柏原キャンパスのエスカレーターが「Sky Escalator」に



1号機入口



3号機出口



3号機出口上



展望台看板

▲ 「Sky Escalator」とSky株式会社の
協力で更新した展望台看板

▶ 記念式典のテープカット
（左から、Sky株式会社寺下和典執行役員、多田昌弘取締役、本学岡本幾子学長、西田文比古理事）



キャンパス『ナニコレ!?』施設

1 サークル棟西側の高台の奥に温室…？

大学在学中、散歩がてらキャンパス内をうろついていたとき、「温室？」のように見える施設がふと目に入りました。当時気にはなったものの、その正体を知らないまま卒業してしまっ…ぜひ調査してほしいです！

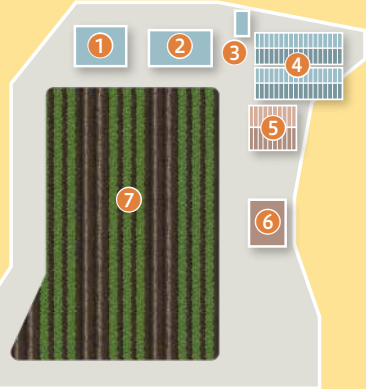
ペンネーム：利休（2017年卒業生）

柏原キャンパスのナニコレ!?

答 研究用の植物を育てているガラス室（一部は恒温室）です。

校内の共同利用施設として研究・教育のための植物の栽培、小動物の飼育及び自然観察を行うことを目的とした「教材園」の一角にあります。ガラス室（図④）や屋根付きの栽培棚（図①）では、現在は主に、私が担当する植物分子遺伝学研究室、細胞構築学研究室（鵜澤武俊 教授）・植物進化研究室（岡崎純子 教授）の研究用の植物を栽培しています。

教材園
（上から）



- ① 屋根付きの栽培棚
- ② 旧魚観察小屋……以前は専用の水槽設備で魚の行動を撮影していました。現在は立ち入り禁止です。
- ③ 観察用物置……小動物を観察することもできます。
- ④ ガラス室（恒温室付き）
- ⑤ プレハブ教室……机と椅子もあり授業・作業・着替えができるスペースです。
- ⑥ 農機具庫……耕運機やシャベル等を保管しています。
- ⑦ 畑……主に、技術教育コースや自然科学コースの授業で使用しています。四季折々いろんな畑植物が見られます。畑（図⑦）の一部区画では、『大教FIKA*』の特別プログラムとして、有志の学生と一緒に様々なプロジェクトも実施するなど、授業・研究以外でも有効に活用されています。

*大教 FIKA…… 修学支援センターが学生支援活動の一環として実施している、水曜日の午後ランチタイム&居場所活動を兼ねた取組です。FIKA（フィーカ）はスウェーデンの生活習慣で「コーヒーを飲む」「休憩する」などの意味があります。

教材園長
鈴木 剛 教授



▲サツマイモを収穫する学生

柏原キャンパスのナニコレ!?

2 第2食堂の奥にある小さなレストラン？

他の食堂とはちょっと違う雰囲気や圧迫されて中に入ったことがありません……レストラン、ですね？ ペンネーム：るちゃ（現役学生）

答 キャンパス唯一のフルサービスレストラン「Restaurant FORET」です。

特徴は何といっても、注文からお食事まですべて座ったままお楽しみいただける所です。2種類の日替わりランチセットと季節メニューを用意していて、味の濃いメニューを注文された方には「お冷のおかわりはいかがですか」といつもより多めにお声がけするなど、席数が多すぎないからこそできる細やかなサービスを心掛けています。卒業してからも家族と一緒に来店されて「お久しぶりです」とお声掛けいただ

くこともあり、長く愛していただいているお店です。以前は教職員しか利用できない時間帯もあったからか、利用者は4：6位で学生より教職員の方が多くですが、今は利用不可の時間などはないので、ぜひ一度ゆっくりお越しください。食後のコーヒー or 紅茶（ランチ+¥ 205）も用意してお待ちしています。なんと、コーヒーはおかわり無料ですよ（営業：平日 11:45～14:00）

レストランスタッフ
一氏 真由美さん



柏原キャンパスのナニコレ!?

3 講義棟とは異なる風変りな建物「旭ヶ丘会館」とは？

普段どおり授業の帰り道に外周道路を原付バイクで走行していたとき、明らかに講義棟ではない謎の建物が…

ペンネーム：keipy（現役学生）

答 宿泊施設です。

旭ヶ丘会館は、集中講義などで遠方からお越しの非常勤講師や入試のときに緊急対応する職員が利用する福利厚生施設として、設置しています。残念ながら現在は、コロナ禍のため通常稼働はしていませんが、寮生が感染した際の療養場所として活用しています。



内部はホテルのような造りになっていて、1階には和室（5室）・集会室が、2階には洋室（シングル6室・ツイン2室）があり、合わせて15人が宿泊できます。

総務部
財務課財務係
井上 理香さん



4 都市型キャンパス空白の花壇？

実は、本校生徒の取り組みを皆さんに知っていただきたいと思い応募しました（笑）まだまだこれからですが、ぜひご紹介をお願いします！

附属天王寺中学校教員

答 小麦栽培（予定）の畑です。

私たち附属天王寺中学校情報科学部では、これまで附属天王寺中学校の敷地内の別の場所で畑をつくり、季節に応じたさまざまな野菜の栽培をしていましたが、土地が狭いこと・痩せてきたことが課題になっていました。そんなときに顧問の先生が「大学の授業で以前使用されていたこの場所はどうか」と提案・交渉してくださり、現在は大学の敷地をお借りして畑を作るための開墾作業をしています。

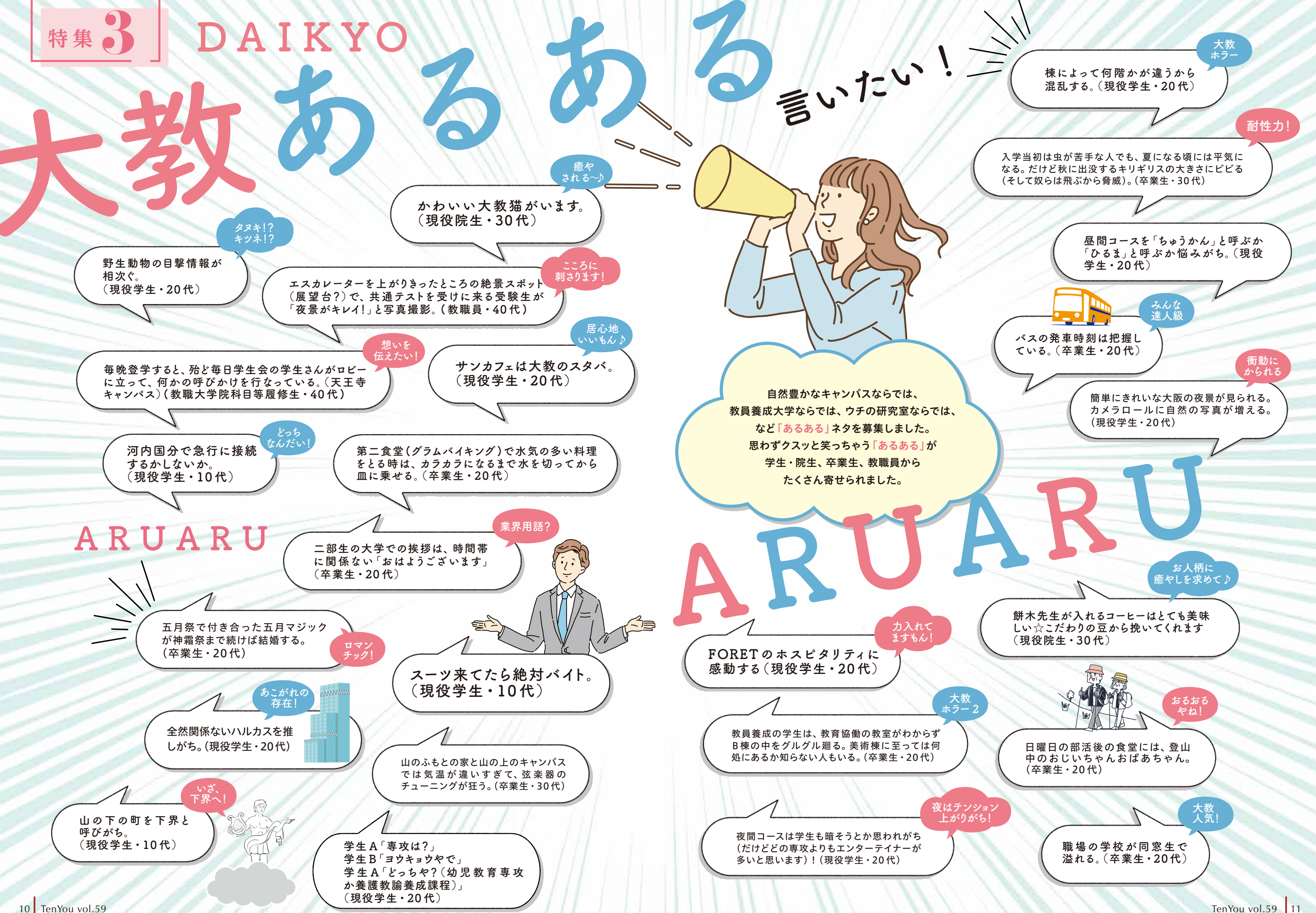
今回、穀物を栽培することにしたのは、需要の高まっている穀物を自分たちの手で栽培して食のありがたみを感じたかったからです。このうち、小麦を選んだのは、小麦は毎朝のパンなどで普段よく食べているものにも関わらず、日本では極めて低い自給率であるため、少しでも自給率を高めることに寄与したいと思ったからです。栽培した後は、収穫できた小麦をつかって、製粉をし、パンをつくることができると考えています。また、単に栽培するだけでなく、気温・湿度・肥料散布量などの条件による収穫量の変化のデータをとったり、土壌中の水分量に応じて自動で水撒きをする装置をつくったりもしたいと考えています。

⑥ 広報担当：傅 元芪さん
④ 2022年度部長：金子 龍一郎さん
⑥ 小麦畑担当：木原 十雨さん



天王寺キャンパスのナニコレ!?





大教あるある

言いたい！

棟によって何階かが違うから混乱する。(現役学生・20代)

大教ホラー

耐性力！

入学当初は虫が苦手な人でも、夏になる頃には平気になる。だけど秋に出没するキリギリスの大きさにビビる(そして奴らは飛ぶから脅威)。(卒業生・30代)

昼間コースを「ちゅうかん」と呼ぶか「ひるま」と呼ぶか悩みがち。(現役学生・20代)



みんな達人級

バスの発車時刻は把握している。(卒業生・20代)

衝動にかられる

簡単にきれいな大阪の夜景が見られる。カメラロールに自然の写真が増える。(現役学生・20代)

自然豊かなキャンパスならではの、教員養成大学ならではの、ウチの研究室ならではの、など「あるある」ネタを募集しました。思わずクスツと笑っちゃう「あるある」が学生・院生、卒業生、教職員からたくさん寄せられました。

ARUARU

お人柄に癒やしを求めて♪

餅木先生が入れるコーヒーはとっても美味しい☆こだわりの豆から挽いてくれます(現役院生・30代)

おるおるやね！

日曜日の部活後の食堂には、登山中のおじいちゃんおばあちゃん。(卒業生・20代)

大教人気！

職場の学校が同窓生で溢れる。(卒業生・20代)

夜はテンション上がりがち！

夜間コースは学生も暗そうと思われがち(だけどどの専攻よりもエンターティナーが多いと思います)！(現役学生・20代)

大教ホラー2

教員養成の学生は、教育協働の教室がわからずB棟の中をグルグル回る。美術棟に至っては何処にあるか知らない人もいる。(卒業生・20代)

FORETのホスピタリティに感動する(現役学生・20代)

カ入れてますもん！

業界用語？

二部生の大学での挨拶は、時間帯に関係ない「おはようございます」(卒業生・20代)



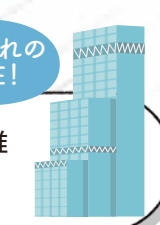
スーツ来てたら絶対バイト。(現役学生・10代)

山のふもとの家と山の上のキャンパスでは気温が違いすぎて、弦楽器のチューニングが狂う。(卒業生・30代)

学生A「専攻は？」
学生B「ヨウキョウやで」
学生A「どっちや？(幼児教育専攻か養護教諭養成課程)」(現役学生・20代)

あこがれの存在！

全然関係ないハルカスを推しがち。(現役学生・20代)



いざ、下界へ！

山の下の方を下界と呼びがち。(現役学生・10代)



ARUARU

どっちなんだい！

河内国分で急行に接続するかしないか。(現役学生・10代)

想いを伝えたい！

毎晩登学すると、殆ど毎日学生会の学生さんがロビーに立って、何かの呼びかけを行なっている。(天王寺キャンパス)(教職大学院科目等履修生・40代)

居心地いいもん♪

サンカフェは大教のスタバ。(現役学生・20代)

ここに刺さります！

エスカレーターを上がりきったところの絶景スポット(展望台?)で、共通テストを受けに来る受験生が「夜景がキレイ!」と写真撮影。(教職員・40代)

タヌキ!? キツネ!?

野生動物の目撃情報が相次ぐ。(現役学生・20代)

かわいい大教猫がいます。(現役院生・30代)

癒やされる〜♪

Athlete's View

身体などに装着し、臨場感あふれる映像を記録できるカメラを使って、アスリート視点の動画を撮影しました。

大阪教育大学 体育会



BREAK DANCE

金森 翔也

かなもり しょうや

教育協働学科
スポーツ科学専攻 3回生

やるからには世界一！

ダンスを始めたのは、姉が通っていたダンススクールについて行ったのがきっかけです。小学生のときに姉と同じヒップホップから始めたのですが、ある日、隣の教室でブレイキン(ブレイクダンス)を見かけたときに「格好いい!」と衝撃を受けて路線変更し、現在まで夢中に取り組んできました。両親の協力もあり、中学年の頃からは動画を見て憧れていたダンサーのレッスンを受けるために、地元石川県と大阪府を行き来して、ダンス漬けの生活でしたね。今でも講義後や休日は一日中ダンススタジオにいることもありますが、一度も苦に感じたことはありません。自分にとってダンスは生活の一部みたいなものなんです。

ブレイキンには固定概念がなくて、自分の考えを自由に振り付けて表現できるのが魅力です。僕は個人としてもチームとしても活動していますが、そのなかで、人との出会い以外にも音楽とかファッション、いろんなものと出会うことができるし、人前で良いパフォーマンスができた瞬間が最高に気持ちいい。

将来的には、大学で学んだ“教える”という知識も活かして、憧れのダンサーのようにレッスンを開くことも考えていますが、今は、組んでいるチームのモットーでもある「やるからには世界一!」という考えに沿って、プレイヤーとしていけるところまでいきたいです!

学外活動DATA

ダンサーネーム: Shoya(ダンスチーム「MORTAL COMBAT」所属)
 戦績(個人): Red Bull BC One Cypher Japan 2021 準優勝
 戦績(団体): BATTLE OF THE YEAR 2022 JAPAN 優勝



SANGAKU

北辰 翔太

ほくしん しょうた

学校教育教員養成課程
中等教育専攻 数学教育コース 4回生

試練と憧れ

「体力づくりをしたいからついて来て」と父に誘われ、小学3年生の頃に初めて登ったのは大阪府と和歌山県にまたがる紀泉高原。ハイキング気分で出発しましたが、なんと途中で登山ルートを間違えてプチ遭難してしまい、日も落ちかけて暗くなってきたなか、なんとか無事に帰路につくことができた、というのが原体験でした。

そんな衝撃的な始まりでしたが、山には、四季の移り変わり、自然の豊かさや、山頂からの魅力的な景色がありました。山の表情もさまざまな登山ルート・気候によって異なり、同じ山でもルートが違えば景色も違い、必要な登山の技術・装備も変わります。登りたい山のために、違う山でその技術を練習し、新しい装備を整えることもしばしば。登山前の準備から、時間をかけて険しい道のりを乗り越えた後には、何事にも代えられない達成感があるんです。

憧れの山を登るために「あの技術も、この技術も身に付けたい」と日々やりたいことが増えていて、最近はOBの方と蓬萊峡(兵庫県)を登ったことをきっかけに、クライミングにも興味が出てきました。この春からは、将来はより専門的な知識をもった高校数学の教員になることを目標に大教大の大学院へ進学するので忙しくはなりますが、会得した技術も活かしながら、いろんな山に挑戦していきたいと思っています。

DATA : 山岳部

部員数: 6人(2023年3月現在)
 創部年: 1959年
 登頂歴: 奥穂高岳(標高3,190m)
 鹿島槍ヶ岳(標高2,889m)



この他にも最新のTOPICSは
こちらからご覧ください



01

2022.11.30

奨学金授与式を挙行



02

2022.12.24

教師をめざす高校生育成 プログラム「教師にまっすぐ」の 修了式を実施



03

2022.12.9

佐藤賢司教授の作品が 国際展で受賞



04

2022.12.1

司法書士を招いて 「契約」を学ぶ特別授業 を実施



05

2023.1.11

近鉄バス大阪教育大線の 応援ソングを制作した学生に 感謝状を授与



06

2022.12.7

大学における 障がい学生支援に関する シンポジウムを開催



07

2023.1.22

3年ぶりに 柏原シティキャンパス マラソンを開催



08

2022.11.17

芸術表現専攻 音楽表現コースが 第66回定期演奏会を開催



大阪教育大学
附属学校園

WATCH

附属高等学校天王寺校舎の生徒が 日本学生科学賞で文部科学大臣賞、国際大会出場へ

附属高等学校天王寺校舎3年生のブランデル葉奈さんが、2022年12月18日(水)にオンラインで行われた最終審査を経て、第66回日本学生科学賞の高校の部で文部科学大臣賞個人を受賞しました。日本学生科学賞は、中・高生を対象に身の回りの小さな疑問や不思議の解明、教科書に書かれている学説に対する疑問の解決などについて、実験・研究・調査作品を募集し、専門家の審査により優秀な作品を表彰するものです。

ブランデルさんは、アリがガラスなどの滑らかな壁を登ることができることを不思議に思い研究を行いました。先行研究や、アリと同じように壁を登ることができるヤモリについて判明していることを基に4つの仮説を立て、大阪教育大学構内にいるクロオオアリを用いて実験し検証。本学の理数情報教育系の辻岡強教授のサポートを受けながら、アリがどのようにして滑らかな壁を登っているのか明らかにしました。AIなどのICTを活用した実用的な研究が多く受賞する一方、審査員講評では、ブランデルさんの研究に対して「とても研究の楽しさが伝わり、わくわくする内容でした」と評価されました。



今回の受賞で、ブランデルさんは、2023年5月にテキサス州ダラス(アメリカ)にて開催される世界最大の学生科学コンテストであるISEF (International Science and Engineering Fair) へ出場します。



附属平野小学校の児童が 柏原キャンパスで美術の校外学習

附属平野小学校の4年生が、10月5日(水)に柏原キャンパスへ校外学習に訪れ、美術棟や工房棟で、表現活動教育系の教授らと学生が準備した4つの授業のうち、希望した2つの授業に参加しました。

加藤可奈衛教授の「アート鑑賞ツアー」では、キャンパス内に屋外設置されている美術品の説明を聴きながら、表現活動教育系の教授らが開発・制作した教材「アートとともだち」のルーペを使って鑑賞しました。

谷村さくら特任准教授の「ねんどで何をつくる?」では、土粘土を使って、好きな動物や、お皿、お城やゲームのアイテムなどの制作にチャレンジしました。

同校のピオルコフスキー潤教諭は、柏原キャンパスの自然物

(木の実や枝、葉など)を用いた造形遊びの活動を行い、児童は、身長を超えるくらい大きなものから手のひらに乗るような小さなものまで、それぞれ多様な造形を楽しみました。

渡邊美香准教授の「すごろく・輪投げ」では、学生が授業で作成したすごろくで遊ぶグループと、大学院生がファシリテートし輪をつくり投げて遊ぶグループに分かれて活動を行いました。どちらのグループの児童も、夢中になって取り組んでいました。

校外学習を終えて、児童は「大学の先生も学生のみなさんも優しく教えてくれてうれしかった」「小学校ではできない体験ができて楽しかったし、また来たいです」と話しました。





表紙作品:「ひだまり」
アクリル/キャンバス 606mm×727mm 2023年2月

作者:神山菜摘 教育協働学科 芸術表現専攻 美術表現コース 3回生

天遊 特別号 (vol.59) 2023年3月発行

企画・編集・発行 /
国立大学法人大阪教育大学広報室
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225
E-mail kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp
<https://osaka-kyoiku.ac.jp>

